

第3章 那須地区の学校教育の現状を表すデータ

ここでは、那須地区における令和5年度の学校教育の現状を表すデータを掲載します。

1 加配教員の有効活用

教員が加配されている学校では、配置の趣旨を生かした活用を行い、成果を上げています。本年度の主な加配措置については、次のとおりです。

【主な加配教員の配置状況】

名称	配置状況	配置の趣旨
小学校4～6学年及び 中学校全学年35人学級 編制（本県独自）	小学校13名（10校） 中学校17名（7校）	小学校においては、児童が基本的な学習習慣の定着や集団での適応を図るため、児童一人一人に対し、よりきめ細かな指導を行う。中学校においては、小学校から中学校への円滑な接続を図るため、生徒一人一人に、よりきめ細かな学習指導や生徒指導を行う。
学力向上実践	中学校21名（16校）	ティーム・ティーチングや、コース別、習熟度別など、柔軟な指導形態を取り入れるなどして、個に応じたきめ細かな指導を行い、教育効果を高める。
専科指導	小学校43名（29校）	教科担任制を導入している小学校において、より教科専門的な指導を行う。
学力向上推進リーダー	小学校3名（9校）	小学校の国語と算数の教科指導に実績のある教員が複数の学校を兼務し、それぞれの学校において教員への個別指導や授業への支援等を行うことで、教員の指導力向上や学校全体の学力向上を図る。
児童生徒支援対応	小学校6名 中学校13名	日本語指導を必要とする外国人子女が、一定数以上在籍する学校、学習指導面や児童・生徒指導面において課題のある学校及び統廃合後の学校に配置し、教育効果を高める。
通級指導対応	小学校23名 中学校2名	言語障害、自閉症・情緒障害等のある通常の学級の在籍児童に対し、通級により個に応じた指導を行う。
特別支援学級対応	小学校6名 中学校1名	多人数、重度障害、重複障害等、特別支援学級において課題のある学校に配置し、個に応じた指導を充実させる。

また、常勤教員の加配措置以外にも様々な非常勤教育職員が配置されています。活用に当たっては、「会計年度任用教育職員等取扱要領」及び「会計年度任用学校職の勤務時間その他の勤務条件に関する要綱」等に基づき、適切な勤務が行えるように配慮する必要があります。加えて、各市町が独自に非常勤講師等を採用していることから、1つの学校に勤務形態の異なる職員が混在するケースが多くなっています。一人一人の職員が適正に勤務できるよう、校内で共通理解を図ることも大切です。

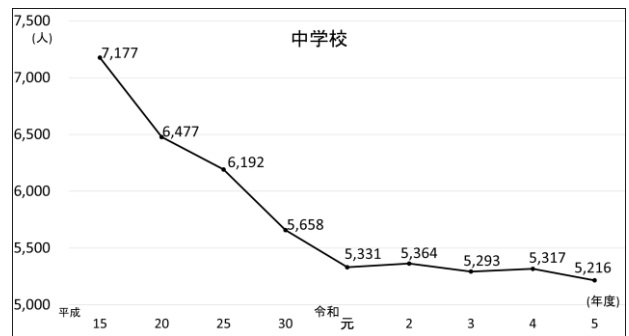
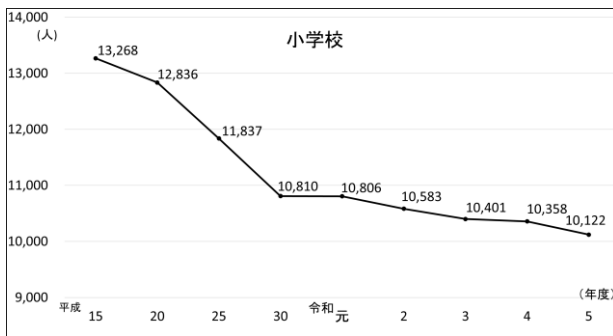
2 那須地区の学校・教職員・児童生徒の状況

(1) 学校数・学級数・教職員数・児童生徒数

	学校数			学級数			教職員数				児童生徒数		
	小学校	中学校	義務教育学校	小学校	中学校	義務教育学校	校長教諭	養護教諭等	栄養教諭等	事務職員	小学校	中学校	義務教育学校
大田原市	19	8	0	150 (35)	57 (20)	0	424	30	9	30	3,311	1,744	0
那須町	6	2	0	42 (13)	15 (7)	0	119	8	3	9	875	431	0
那須塩原市	17	8	2	205 (62)	92 (30)	15 (4)	634	29	6	31	5,735	2,958	284
合計	42	18	2	397 (110)	164 (57)	15 (4)	1,177	67	18	70	9,921	5,133	284

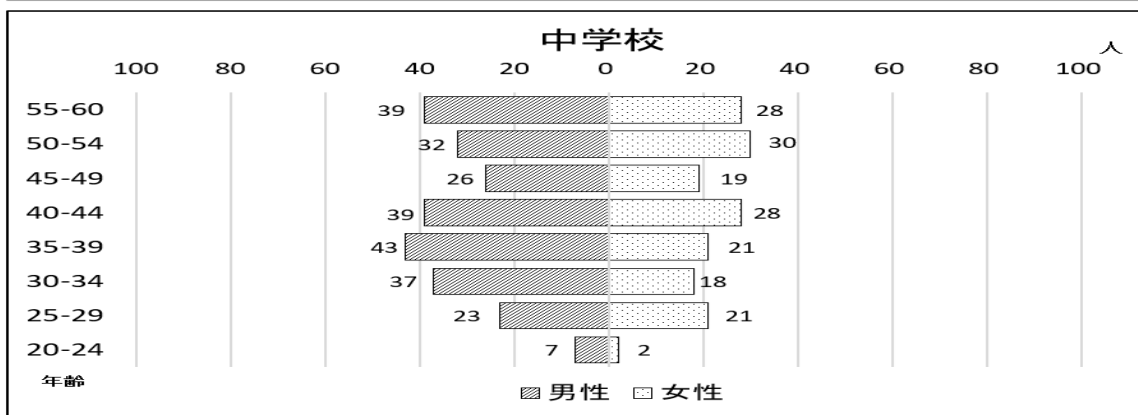
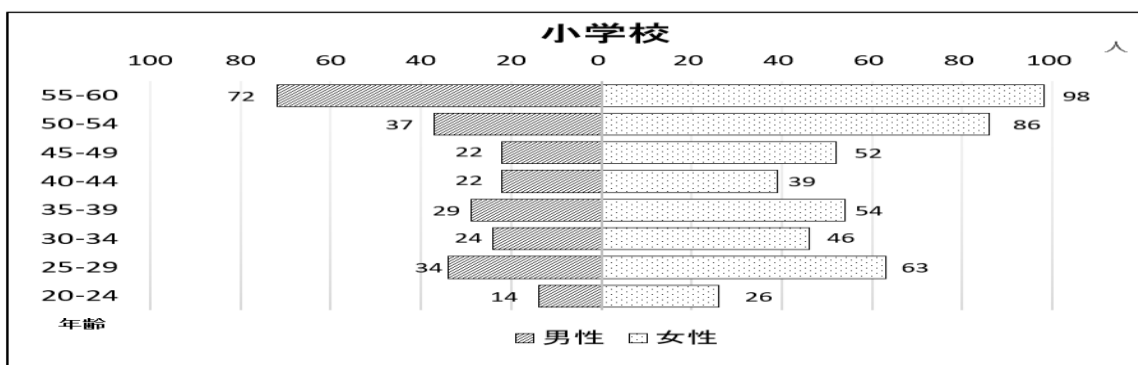
【令和5年5月1日現在、（）外数で特別支援学級数を表示、特別支援学級児童生徒数を内数として含む】

(2) 児童生徒数の推移（令和5年5月1日現在）



(3) 校長・教員の年齢構成

(令和5年5月1日現在の校長・教頭・主幹教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭の人数。年齢は令和5年度末とする。)



3 教育課程編成上の工夫

(1) 小学校6学年における教科担任制(義務教育学校、分校を含む45校)

教科担任制を導入することにより、教科指導の専門性を生かした、よりきめ細かな指導が期待されます。

◆教科担任制の実施教科

	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
学校数	11	26	29	23	36	37	19	31	28	33
割合	24.4%	57.8%	64.4%	51.1%	80.0%	82.2%	42.2%	68.9%	62.2%	73.3%

(2) 中学校におけるチーム・ティーチング(義務教育学校、分校を含む21校)

個に応じた指導を充実させることで、学習内容の確実な定着を図っています。

◆チーム・ティーチングの実施教科

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	外国語
学校数	2	1	21	5	1	1	6	2	16
割合	9.5%	4.8%	100%	23.8%	4.8%	4.8%	28.6%	9.5%	76.2%

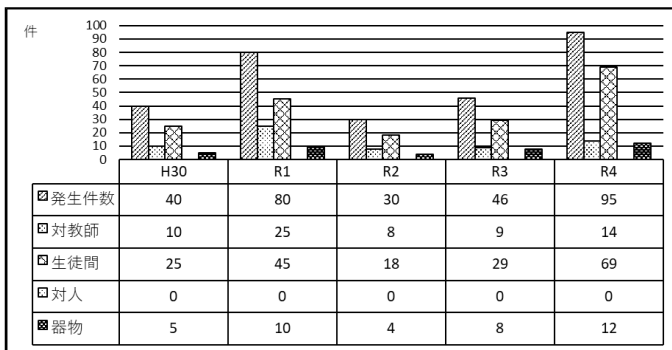
4 児童・生徒指導上の現状と対応

(1) 暴力行為の現状と対応

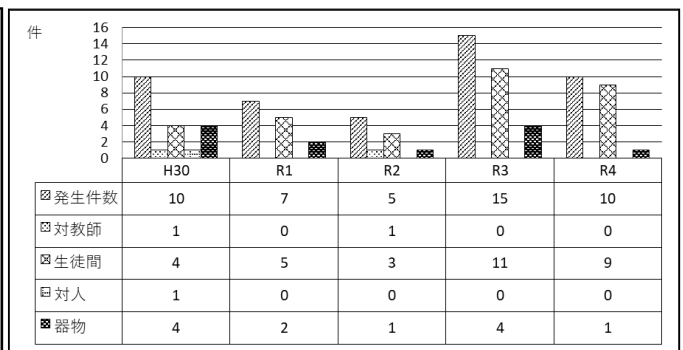
本地区内の令和4年度の暴力行為発生件数を見ると、令和3年度と比較して小学校で49件増加し、中学校では5件減少しています。小学校における発生件数の増加については、各学校において、積極的に暴力行為を認知していること、特定の児童生徒の複数回に渡る暴力行為の認知によるものが要因であると考えられます。また、発達障害やその疑いのある児童生徒が、教師による指導の意図を読み取れなかったり、友人とのコミュニケーションが取れなかったりして、感情をうまくコントロールできずに、手や足が出てしまうケースなどが報告されています。

今後も引き続き、特別支援教育の視点を生かした指導・支援の充実、本人の特性や家庭環境等、暴力行為の背景についての理解、暴力行為を起こさない心を育てるための規範意識や倫理観の醸成、さらには、関係機関との連携及び組織的な対応の充実が求められます。

暴力行為（小学校）



暴力行為（中学校）

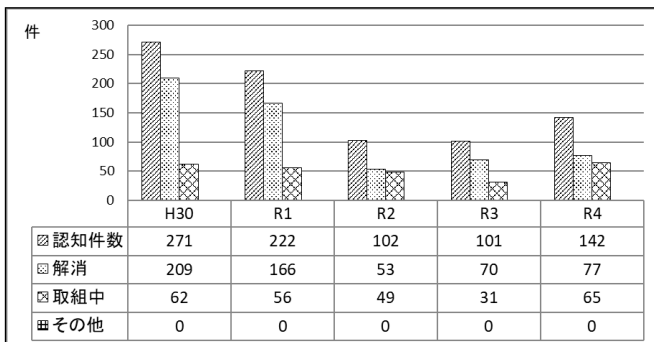


(2) いじめの現状と対応

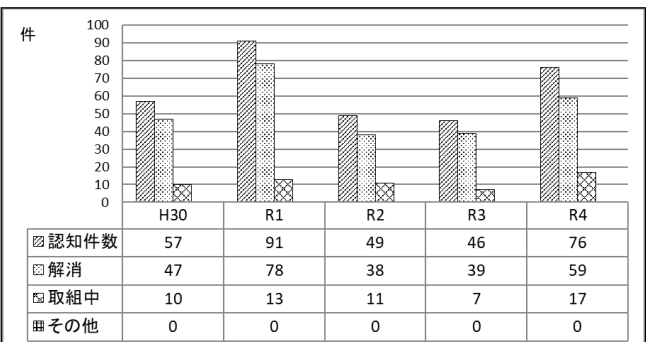
本地区内のいじめ認知件数を見ると、令和3年度と比較して小学校で41件増加し、中学校で30件増加しました。いじめの認知件数の増加に至ったことについては、各学校において、いじめの定義を正しく認識し、積極的にいじめの認知を行っているとともに、新型コロナウイルス感染症の感染防止の取組が少しずつ緩和され、児童生徒間の接触が少しずつ増えたことが影響していると考えられます。

引き続き、いじめはどの子供にも、どの学校においても起こり得るものであること、また、誰もが被害者にも加害者にもなり得るものであることを十分に認識しておく必要があります。そして、いじめの対応については、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的に未然防止、早期発見・早期対応することが極めて大切です。いじめが起きにくい、いじめを許さない集団づくりなど未然防止の取組の充実とともに、いじめに関しては、ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為も含め、早い段階からの確に対応することも重要です。

いじめ認知等（小学校）



いじめ認知等（中学校）



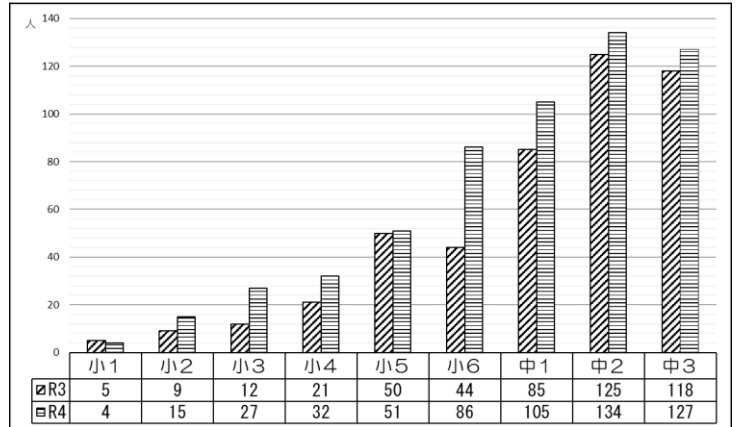
(3) 不登校の現状と対応

本地区の不登校児童生徒数を見ると、小学校の不登校児童数は令和3年度に比べ増加しており、全体の42.8%が前年度から継続の不登校児童になります。また、中学校の不登校生徒数は令和3年度に比べ増加しており、全体の58.7%が前年度から継続の不登校生徒になります。今後も引き続き、個々の要因・背景を適切に見極めた個別的な取組の充実及び新たな不登校を生まないための取組の推進が大切になります。

「学年別不登校児童生徒数」のグラフでは、令和3年度に比べ、小学校1年生を除く他の学年において不登校児童生徒が増加しており、特に小学校では6年生、中学校では1年生の増加が顕著となっております。

これらの現状を踏まえ、未然防止の取組や適切な初期対応を推進していくとともに、SCやSSW等の活用により、校内の相談・支援体制の充実や関係機関との連携強化を図ることが大切になります。

学年別不登校児童生徒数



5 へき地等学校及び複式学級の概況

本年度、本地区におけるへき地等の学校は、へき地1級が1小学校です。また、複式学級設置校は小学校7校、義務教育学校1校です。

【へき地等学校及び複式学級をもつ学校の状況（令和5年5月1日現在）】

(小学校) ◇網掛けは複式学級 ◇級はへき地学校等の級別区分

市町名	学校名	級	複式	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学級数	備考
大田原市	宇田川小		○	6	9	7	9	11	15	5	
	奥沢小		○	5	9	5	6	11	12	6	特支1
	羽田小		○	5	5	4	8	6	13	4	
	佐良土小		○	5	2	6	4	3	10	4	特支1
	湯津上小		○	11	16	4	10	11	12	6	特支1
	蛭田小		○	5	6	8	11	9	14	6	特支1
	須賀川小	1	○	6	4	2	6	10	3	5	特支1

(義務教育学校) ◇網掛けは複式学級 ◇級はへき地学校等の級別区分

市町名	学校名	級	複式	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	学級数	備考
那須塩原市	塩原小中		○	2	5	2	7	4	6	4	3	8	7	特支1

6 外国人児童生徒教育の現状

本地区における外国人児童生徒教育拠点校(栃木県教育委員会指定)は、次の通りです。拠点校は、外国人児童生徒(帰国児童生徒を含む)の就学の受け入れの中心となり、外国人児童生徒に対する教育の研究や実践を行っています。また、日本語指導教室において段階的・効率的に日本語を指導しています。

【令和5年度外国人児童生徒教育拠点校】

市町名	学校名
大田原市	西原小学校
那須塩原市	共英小学校
	東小学校

市町名	学校名
大田原市	大田原中学校



7 特別支援学級等の設置状況

小・中学校及び義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童生徒や、通級による指導を受ける児童生徒の数が増加傾向にあり、ここ数年、特別支援学級や通級指導教室を新たに開設する学校が増加しています。なお、本年度の特別支援学級等の設置状況は下表のとおりです。

市町	学校名	知的	自情	難聴	弱視	通級指導教室			市町	学校名	知的	自情	難聴	肢体	通級指導教室				
						言語	自情	その他							言語	自情	その他		
大田原市	大田原小	4	2			1			那須塩原市	那須中	1	1	1						
	西原小	2	1				1			那須中央中	2	1	1						
	紫塚小	1	1							黒磯小	1	1	1	1	1				
	親園小	1	1							稲村小	2	2					1		
	市野沢小	1	1					1		東原小	1	2							
	奥沢小	1								埼玉小	2	2							
	金丸小	1	1							豊浦小	2	1						1	
	北金丸分校		3							共英小	2	2							
	薄葉小	1	1							鍋掛小	2	1							
	佐久山小	1	1							大原間小	2	3						1	
	佐良土小		1							波立小	1	1							
	湯津上小	1								高林小	1	1							
	蛭田小		1							青木小	1	1							
	川西小	1	1							三島小	3	3	1※					1	
	黒羽小	1	1							槻沢小	3	1							
	須賀川小		1							東小	2	2					1		
	両郷中央小	1	1							南小	2	2							
	大田原中	2	1							西小	1	2		1					
	若草中	2	2							大山小	1	2							
	親園中	1	1							箒根学園(前)	1	1							
	金田北中	1	1							塩原小中(前)	1								
	金田南中	1	1							黒磯中	1	1		1					
	北金丸分校		2							黒磯北中	2	2							
野崎中		1※						厚崎中	2	2									
湯津上中		1						日新中	2	2									
黒羽中	1	2					1	東那須野中	1	1									
東陽小	1	1						高林中	1	1									
学びの森小	1	1						三島中	3	3									
高久小		1						西那須野中	2	3						1			
田代友愛小	1	1			1			箒根学園(後)		1									
那須高原小	1	1																	
黒田原小	1	2			1※	1													

※令和5年度新設学級（教室）

小学校種別	知的	自情	難聴	肢体	弱視	中学校種別	知的	自情	難聴	肢体
学級数合計	53	55	2	2	1	学級数合計	25	30	2	1